（昭和七年九月三十日第三種郵便物認認）　昭和十二年六月五日　THE TOHOKUSHOKOJIHO　第八十七號　【一】

東北商工時報

毎月五日　廿五日發行

編輯兼發行人　堀越梅吉
印刷

福島縣平市北白銀町
發行所　東北商工時報社
古川馨六

廣告料　一ヶ月金一部一圓
行金　一錢十錢

祝平市

多年要望されて來た吾が平町も六月一日より市に昇格することになつた事は偏に地方民の努力と熱意に依るもので誠に同慶至極に堪えない、今回の市制施行を契機に本社は更に一段の努力を盡し創刊以來の使命に從つて地方産業發展のために滿福の努力を傾倒すべき覺悟である。輝く平市の誕生にあたつてその前途を祝福すると同時に市民と一致協力して市政の發展に貢献せんことを望む次第であります。翼は地方賢明なる有志諸彦本社の使命を達成すべく深厚なる御援助を賜はらんことを懇願して止もざる次第であります。

東北商工時報社
古川馨六
堀越梅吉

平市の中心人物

市制實施と同時に平市の中心人物として平の自治功勞者として表彰を受けた氏は人も知る、東日本消防界の第一人者として光つてゐる、大元老の井上氏の出馬も市民より興かと思ふ、その意味に於て紙面の宥さるべき範圍内に於て茲に紹介する。期待されてゐる。

◆井上茂作氏は前縣會議員

◆關内正一氏の存在は有名である。現縣會議員の爆彈三勇士の一人として數へられてゐる熱血の人であり、第二の井上と呼び聲のある、インテリー、氏の明日の飛躍を約束されてゐる。

◆野崎滿藏氏はは正義觀念の深い人で、强きを驅逐き弱きを助ける精神を以て行進してゐる前回の總選擧に於いて比佐を出すなら野崎を出せと地方民の聲が夢の樣に腦裡に響くのだ。

◆國府田直良氏は熱血熱情の人にして弱者に同情する正義の士である、今日の平藝妓屋組合は近郷近在より評判の良い理由は無理に金を費はせぬ精神をモットーに營業を續けてゐるからだ國府田直良氏は愛市發展に公共事業に献身的努力してゐる、近時の平市會議員の選擧に氏の出馬を一般市民より話談に昇つてゐる。

◆大井川幸隆氏は今日は社會大衆黨の獨占時代である人も知る平平窪合併問題に反對の闘士として活躍した熱情の人である、大井川幸隆氏は『貫一お宮』で有名な荒尾丈助のニックネームのある快男子だ氏よ男らしく戰ひ社會大衆黨の快男子

◆多田井笑次郎氏は愛市發展のために貢献された事は甚大であり、而も町民より肉身の親とも慕はれてゐることを見ても多田井笑次郎氏の人物を推して知るべし偉大な存在である人は言ふ多田井笑次郎氏の如き人格者を六十萬縣民の代表者として恥かしからぬ多田井氏を縣會に出したいものだと言つてゐたが、まつたく申分のない人格者だ

◆鈴木光吉氏は鎌田町を中心として强固な地盤はテコでもうごかぬ鈴木光吉氏は前教育者として學深く溫厚にして敵もなく躍進大平市會議員候補者として出馬も噂されてゐる

◆吉田五平氏は溫厚にして嫌みなく新聞界の第一人者として定評ある新聞人として正義觀念に燃ゆる闘士である近時の市會議員の選擧に出馬を一般市民より懇願されてゐる。

◆蓮沼龍輔氏は縣會議員の中心人物として氏の頭腦は多大なり、近時の第一回市會議員選擧に氏の如き人材は平市になくてはならぬ人だ。誠實にして如何なる大事に遭遇するも所信に向つて邁進する氏の熱烈なる精神一到こそ何事か成らざらんや氏の前途こそ平市民の期待するところだ

祝平市制

大日本電力株式會社
平營業所
所長　中島正雄

度量衡、モノサシ、計量器、体溫計
マス、ハカリ、寒暖計
三關内藥局
藥劑師　關内榮助
平四丁目　電四〇番

釜屋商店
縣城セメント會社特約代理店
三井生命保險平代理店
電話九番　九九番
東京振替口座一〇九五六

平市七丁目
工藤鑄造所
工藤源吉

平病院
院長　醫學博士　鈴木定藏
（平市南町元共濟病院跡）電話六四一番

平藝妓屋組合
平三業保健組合
平市料理屋組合

石城郡内各學校長會
平市銀行組合
片倉磐城製糸株式會社
磐城建物株式會社
平市役所

平市研町　高岡屋商店　電四六〇番
平市新川町　谷屋吳服店　電話四三七番
平市三丁目　なかや洋服店　電話二〇三番
平市四丁目　鶴屋商店　電話一四〇番
大黑屋　勝次商店　本店　平市三丁目　支店平市三丁目角（常陽銀行前）電話一一六番
土木建築請負業　強口唯七郎　平市田町
平市鎌田町　金成國雅
九品寺住職　遠藤心光
平市四丁目　マルトモ柴田書店　電話二三四番
マルトモ運動具店　電話一二四番
マルトモ食堂　電話一二三番

平市紺屋町　織田材木店　電話三三五番
平市四丁目　小野屋藥局　電話一四四番
平市三丁目　株式會社　丸ほん家具漆器店　電話二五九番
平市公園下　内外建藥材、建具材　阿部材木店　電話四六〇番
平市七丁目　合資會社　河田鐵工場　電話三二九番
平市堂の前　合資會社　平製作所　電話四十一番
平市才槌小路　武藏鐵工場　電話五一四番
平市大町　渡邊鐵工所　電話呼二七七番
平郵便局長　牛崎久吉
平市二丁目　坂本紙店　電話一八番

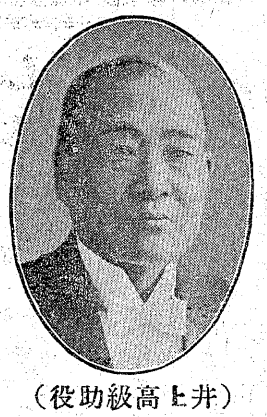
祝平市制誕生

平市建設に付ては去る昭和九年の末期に創まり本格的に具體化するに至つたのは昨十一年度に入りてより市制調査會の視察に發し愈々本腰に具現化し平窪村の部落と懇談會を開き數回に交渉を累ねたる結果平町會は滿場一致一人の反對もなく決定したり、平窪村に於ては多少迂餘曲折ありたるも合法的に解決し六月一日より市制を施行するに至り當初の目的を貫徹致しましたことは洵に快心極りなき處であります

本縣の地勢は阿武隈山系を中心に中央西部東部の三方面に分れ西部は會津若松市、中部福島郡山の二市存在し獨り東部常磐線沿道に一市だも認めざるは頗る遺憾とする處であつて中心都市の存在は地方全體の利害得失に關する事象尠なしとせず中心都市の繁榮は即ち其地方一般の生活に反映するものなるを考ふるとき豈獨り平市夫れ自驛の幸福のみならんやである

（平青沼臨時市長）

然しながら徒らに形式に捉はれ內容之れに伴はざるは何等の役にも立ざる虞なしとせざれば躍進的強力なる新市を建設するにある、假令ば單なる商業商品分配店舗に止めず進んで工業誘致生產都市を目標とし之れを強化するにあらざれば市民生活の安定を達し得たりと謂ふ可らず爰に幾多の苦心を要する處なるも從來地域狹少工場地帶に困惑し來りたるも平窪併合により緩和され河川改修も竣工に近づき總体的に水災の防止を達せらるべく加ふるに燃料即ち石炭附近に存在し廉價に供給し得るを以て工場建設の條件有利なるは之れが實現を期すること決して遠き將來にあらずと信ず而も自治の進展向上は人心の和にある一致協力にある市制第一歩に立ち滅私奉公の心境を以て一市民として努力致したいと考へる近く行はるべき市會議員の選擧に當り嚴正なる批判の下に新市の體面を汚さざる選良を得たきものと祈る處である希くは市民各位永き歷史を有する町の解消と共に新たなる平市の誕生を祝福し自治に深き思を致し貢獻せられんことを一言を叙し祝辭とす



（井上高級助役）

昭和十二年六月一日

青沼鋒太郎
井上茂作

今日の問題

縣氏、青年宰相に期待、後繼內閣組織の大命は近衛文麿公に降下した、未知數であるが內閣の首班としてその人物識見ともに期待してゐるだけ政黨、經濟界產業方面とも双手を擧げて喜び一流人物を閣僚に列して擧國一致强力內閣出現につて非常時局を打開、問題の諸懸案重要國策の一日も早く實現せんことを待望してゐる。

振上げた拳の遺場　政民兩黨が倒閣本部の初店を開いたその日、目指す相手が向ふから倒れ、この所振り上げた拳の遺場に當惑の態。

次に來るもの　平市誕生——次に來るものが初代市長の問題である、どんな人物であるか問題中の難問題である、初代平市長の名譽を獲得する人何者なりや、今の所青沼氏に落つくともいへないし、初代平市長には井上茂作氏、野崎滿藏氏、諸橋久太郎氏、鈴木長三郎氏などの話題が乱れとぶ、併し平市誕生の生の親たる青沼鋒太郎氏におはちが廻つて來るのではないかとも言はれてゐるが今の所何んともいへない。市長代理で終るのではないかとも言はれてゐる

大命近衛公に　林內閣退陣のあとを受けて後繼內閣組織の大命は貴族院議長近衛文麿公に降下した。

近衛公は由緒を誇る五攝聞の筆頭として我國隨一の名門の出であるばかりでなく聰明な頭腦と豊な情操とそして近代的な教養とをあはせめぐまれた大人格者であり非常時日本が持つ若く大宰相として恥かしからぬ貴公子である。

◇　◇　◇

塙町　割烹旅館　花屋本店　電話七・八番　早田政市

塙町　丸屋旅館　青砥善雄

塙町　割烹　塙ホテル　金澤義光

鐵道省指定旅館　那須屋旅館　郡司末男　東白河郡豊里村東館

高野村長　鈴木芳太郎

高野村　高橋仲右衛門

西白河郡白河町長　內藤六三郎

會津沼尻中の澤溫泉　胃腸病の名湯　內湯　白城屋　川桁驛下車耶麻郡軌道乘替沼尻行

會津中の湯溫泉　胃腸病婦人病の名湯　內湯旅館　朝日屋

太田村助役　大浦寛治

喜多方郵便局長　春日重晴

喜多方市銘酒製造元　東海林勝美

喜多方町　渡部製材所

喜多方町　合名　風間會社

喜多方町　銘酒大和川醸造元　佐藤彌右衛門　電話一一二番

若松市榮町　土木建築請負業　山田榮次

若松市榮町　土木建築請負業　根本熊太郎

若松市新横町　味噌醬油醸造元　松下爲藏　電一二九番

若松市天寧寺町　銘酒花春醸造元　宮森常八　電話二四〇番

猪苗代町　遠藤染藏商店　電話長三番

須賀川町長　大沼正一

岩瀬郡須賀川町　公立　岩瀬病院

白河町　醸造　白河會社

郡山第三小學校長　木村一

祝地方產業發展

苗代町外二ヶ村組合町長　青木常吉

同　助役　原田小平

千里村長　秋山義次

同　助役　小池武盲

同　收入役　阿部正規

長瀬村長　原田清

長瀬信用組合專務　宮澤重明

月輪郵便局長　鈴木勘四郎

福良村郵便局長　武藤米藏

神指村長　皆川應助

金上助役　吉田不三男

一箕村長　三浦虎三郎

一箕村消防組頭　松本傳次

松山消防組頭　小澤平八

磐梯消防頭　原田小平

神指村消防組頭　岩澤吉重郎

若松土木監督所長　齋藤久義

猪苗代土木監督所長　岩越與喜三

猪苗代町　山本親武

酒造業　鹽谷七重郎

酒造業　淺井甚一郎

宮本村會議員　鈴木龜三郎

宮本村消防組頭　水野政三

竹貫村長　根本正信

石川郡中谷村長　深谷吉勝

同　母畑村長　關根万吉

中谷村信用組合長　矢吹彦之助

石川町長　深谷新之助

石川郵便局長　下山田源治

石川中學校長　森深造

石川產馬組合長　生田目源吉

石川町　鈴木秀助

石川土木監督所長　岩川政五郎

棚倉町長　宗田利助

同　助役　松本久策

同　收入役　田中俊次

高野村助役　岸波彌兵衛

高野村收入役　尾又政一

高野村消防組頭　鈴木子之吉